

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年2月29日

事業所名：多機能型通所支援事業所 愛(放デイ)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	88%	12%		厚生労働省が定める基準を満たしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	88%	12%		児童指導員、看護師、機能訓練士等配置基準に必要な職員と現場の業務上必要な職員がきちんと配置されているかを事前に必ず確認しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	75%	25%	・段差等がないようにしている。 ・普通の借家なので限界はあるが、可能な限りバリアフリーになるよう工夫している。	借家なので限界はあるが可能な限りバリアフリーになるように工夫している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	88%	12%	・明確にこれと決めて取り組んでいる訳ではないが、改善が必要なものには、すぐに取り組み、実行している。(記録なども残す)	明確にこれと決めて取り込んでいる訳ではないが、改善が必要なものには、すぐに取り組み実行している。(記録なども残す)
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%		・保護者の方からのアドバイスや意見は業務改善のためにできる限り取り入れるようにしている。ただし難しいものは説明し、検討するようになっている。	保護者も方からのアドバイスや意見は業務改善のためにできる限り取り入れるようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	88%	12%	愛だより及びホームページにて	愛だより及びホームページにて
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	50%	50%		外部による評価は行っていないが、学校や他の事業所等からの評価や助言には極力耳を傾け、改善するよう努めている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%		・外部での講習は1~2名ずつ出席してもらい、できるだけ全員が参加する機会をもうけている。	外部での講習は1~2名ずつ出席してもらい出来るだけ全員が参加する機会をもうけている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	88%	12%		個別支援計画書を基として平日、休日、長期休暇時と状況に応じて、ご家族と話し合いながら支援を行うよう心がけている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%		・土・祝日・長期休み時は難しいが、平日はお迎え前に申し送りをし、情報共有を行なっている。	土曜・祝日・長期休みは難しいが、平日はお迎え前に申し送りをし、情報共有を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	50%	50%	・送迎時間等で退勤時間がバラバラな為、その日のうちに共有は難しいが、次の日には必ず申し送り等の情報共有を行っている。 ・職員の勤務時間によるので、全員は難しいがその時にいる職員間では申し送りを行なっている。ただし翌日、昼礼会議にて全員に伝えるようにしている。	職員の勤務時間によるので、全員は難しいが、その時にいる職員間では申し送りを行っている。ただし翌日に申し送りにて全員に伝えるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%			記録の書式など新しく分かりやすくなるよう工夫している。急変時などは細かく内容を記録するよう心掛けている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%		・記録の書式なども新しくし、分かりやすくなるよう工夫している。また、急変時等は細かく内容を記録するよう心がけている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	100%				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%		・基本的には児発管が参加しているが、利用者の方の状況に合わせて(医ケアの方や性別等)看護師や支援員等が参画するようにしている。	基本的には児発管が参加しているが、利用者の方の状況に合わせて(医ケア・性別等)看護師や支援員が参画するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	88%	12%	・事業所側からは必要に応じて連絡しているが、学校側あまりない(年間計画・行事予定などについても無し)基本的にこれらの情報は家族経由となっている。	事業所側からは必要に応じて連絡しているが、学校側からはあまりない(年間計画・行事予定)。基本的に、これらの情報はご家族経由となっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	63%	37%	・主治医とは連絡体制はとっていないが、家族とは常に連絡ができる状態にはしている。 ・ご家族へ依頼し、指示書は内容変更の都度、預かるようにしているが、主治医と直の話し合いは無し。	ご家族に依頼し、指示書は内容変更の都度、預かるようにしているが、主治医と直の話し合いは無し。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	75%	25%		相談支援員の方や児童発達支援事業所等から情報を共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	100%		・会議、書類等作成し、相手先に伝えている。	移行連絡会議に参加し、書類作成し相手先に伝えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	63%	37%	・研修等ある場合は極力参加するようにしているが、研修時間が事業所の提供時間とかぶると人員配置の都合上、参加が難しい。	研修等ある場合は極力参加するようにしているが、研修時間が提供時間とかぶると人員配置の都合上参加が難しい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	12%	88%	・コロナが発生してからは、利用者様の体調に配慮してできていないのが現状。 5類にはなっても対策がされない以上、今後も難しい。	新型コロナ発生してから、利用者様の感染予防で出来ていない。今後も感染予防で難しいと思う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	25%	75%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%		・ご自宅まで送迎しているの、送っていった際に、その日の様子や今後の支援についてなど話せることが多い。	ご自宅まで送迎しているの、送っていった際に、その日の様子や今後の支援についてなど話せることが多い。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	50%	50%	・重症心身の方なのでペアレント・トレーニングの支援は適さない。	利用者様が全て重症心身障害児の方なので、ペアレント・トレーニングを行っていない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	12%	88%		プライバシー的な観点もあり、保護者会の開催支援は行っていない。また開催の要望もない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%		・窓口を設け、何かある場合には連絡するようお伝えはしている。	窓口を設け、何かある場合には迅速かつ適切な対応をするように心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%		・愛だよりにて年4回ほど発行している。	愛だよりにて年4回ほど発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか	100%			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%		・連絡ノート、電話、メール、LINE、送迎時直にお話する等、話せる環境を整え、コミュニケーションをとっている。	連絡ノート・電話・メール・LINE・送迎時などでお話をする等、話せる環境を整えコミュニケーションをとっている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	12%	88%	・コロナ発生後は厳しい。コロナ発生前はプランとしてはあった。(事業所内の夏祭り等)	新型コロナ発生後は難しかった。感染予防をしながら出来ることを考える。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%		・マニュアル作成以外にも研修等実施した際に周知している。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%			
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	100%			
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%			契約時にアレルギーの有無を聞き取りし、事業所で共有している。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%			ヒヤリハット事例が起こった際は、スタッフ間で情報共有し、記録に残す。